

# めぐみ

ガラシアニュース

<http://www.gratia.or.jp/>

2024

No. 179



「打ち上げ花火」丸山佳彦氏 撮影  
ホスピスナイトルームより

## 目次

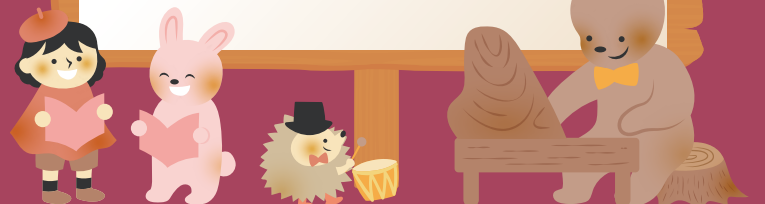
緩和ケア研修会  
訪問看護ご利用のみなさんについて  
夏のひと時『ホスピス・ナイトルーム』  
アートでつなぐ共につくる喜び  
～老健・脳いきいきアート教室～  
災害に役立つローリングストック

## お知らせ

■『がらしあまつり』開催します

日時：2024年10月27日(日)  
9時30分～12時30分

詳しくは、ポスターやホームページで  
お知らせいたします



## 緩和ケア研修会

当院ホスピスは2005年に開設され、以前はホスピス通信を定期的に発行し入院中の様子を紙面で伝えていましたが、今はそれもなくなってなかなか入院中の様子をお伝える場面がない状態でした。ホスピス入院前の面談でご家族様から「ホスピスはどんなところですか?」「どんな治療をしてくれるのですか?」「終末期でないと入れないのですか?」などとよく聞かれます。紹介元医療機関からもホスピスに入院されてからの状況が知りたいとの声も上がっていました。コロナ感染が拡大してから交流が図れなかった時期もありますが、このような声にお応えしてもっとホスピスについて知っていただくことができたらと思い、昨年度から医療者の方を対象とした緩和ケア研修会を開催しています。

第1回目は2024年2月21日に当院ガラシアホールにて開催され、現地参加とZOOMでのハイブリット形式で行いました。その時はホスピス医長の長谷川医師が「高齢化社会におけるホスピス～ガラシア病院ホスピスの役割～」、真木師長が「ホスピスで大切にしているケア」についてそれぞれ講演させていただきました。

第2回目は2024年7月11日に同じ形式でリハビリテーション科理学療法士の吉本主任により「ホスピスのリハビリテーション」、長い間ボランティアと

してご活躍されている下村忠生様に「ホスピスのボランティアとして」というテーマで講演していただきました。

WEB参加の方が正確にはカウントできていないのですが、各回とも50名以上の参加がありました。

参加者の中にはもっと当院を知りたいと言われるかたや安心して紹介できるという声も聞かれました。ご意見ご要望も多数いただいております。これからも年2回の開催をする予定となっています。これをきっかけにもっと医療関係者のかたにホスピスについてのご理解が深まり、患者様・ご家族様に伝えていただければ安心して療養していただけるのではないかと考えています。

地域医療連携室 師長 宇津 裕実



## 訪問看護ご利用のみなさんについて

ガラシア病院を退院後、ガラシア訪問看護ステーションをご利用いただいている方をご紹介します。

ご利用者様は80歳代で入院時は歩行が困難でしたが、懸命にリハビリをされて退院時には主治医も驚くほど動けるようになって帰られました。しかしながら、入浴や歩行、生活動作や趣味活動では介助が必要で、訪問看護を利用される事になりました。訪問当初の目標は、生活の自立、趣味活動の再開、屋外での買い物などでしたが、足の力不足や足首の固さが目立ち、手や背中、腰回りの筋力が少なく、安全に動く事が希望している活動などはできない状態でした。ご本人も不安感で動作に自信がなく、怖くて立って歩く際は身体が曲がってしまっていました。その後、病院スタッフと連携して、「退院後はどのようなサービスが必要か」「望まれている事はなにか」「どのようなお人柄か」などの情報を交換しながら訪問看護を続けていただくと、徐々にご本人の意欲や自信がついてきて、歩き方に変化が現れました。顔が上がり、足が上がるようになり、一人で屋内が歩けるようになってくると、趣味活動にも意欲がでてきて、60歳から始めたピアノやバイオリンを再開されました。現在は、趣味活動やご家族とお買い物、外食にいかれるなど、予想よりも早く日々の楽しみを取り戻し、毎日積極的に忙しく過ごされています。徐々にやりたい事も増えて、今の目標は海外に旅行に行くことです。ご本人とご家族の意欲や前向きな姿勢に、訪問スタッフも感銘を受けております。私たちもその目標にあわせて、お手伝いを続けています。



ご紹介した方のようにガラシア病院を退院されたご利用者様については医療情報だけではなく、どのような事を望んでおられるのか等を詳しく情報交換できます。在宅サービスと病院や老健が、気軽に相談できる関係はガラシア会の大きな強みと考えています。

ガラシア訪問看護ステーション 福田 裕之

## 夏のひと時『ホスピス・ナイトルーム』

2024年8月8日（木）に茨木市内で花火大会が開催されました。ちょうど花火が打ち上げられる場所が北館からよく見えるので、ホスピスにご入院中の患者様とご家族にも楽しんでいただこうと、北館の屋上やデイルームを『ホスピス・ナイトルーム』として特別に開放させて頂きました。

北館の屋上では暑いながらも夜風が心地よく、患者様やご家族の方々は夜空に打ち上がる色とりどりの花火をそれぞれのかたちで楽しまれていました。残念ながら屋上に出ることが叶わない方も各階のデイルームに集まってこられ、キラキラと舞う花火の光を窓越しに堪能されていました。その時の花火の写真をカメラが趣味のご家族さんからご厚意で頂きました。表紙の写真は、その時のひとコマです。夏のひと時を皆さんと共に。

北館 1階看護師長 徳永 有理

## 「アートでつなぐ共につくる喜び」～老健・脳いきいきアート教室～

月1回、老健施設にて利用者様とともにさまざまなテーマと画材を使い美術作品制作を楽しんでいます。ほんの1時間程度のプログラムですが、皆さんのいきいきした表情を見るだけでも幸せなひとときとなっています。

最初は「上手くできるかしら?」「わたし絵が苦手だから…」とためらったり消極的だった方も、いざ筆をとり制作が始まるとやがて夢中になり、何回か参加されるうちに次第に表現が大胆になっていきます。そして同じテーマや画材を使ってもそれぞれまったく違う作品に出来上がるのがアートのおもしろいところです。

子供の創る作品もまた原始的なエネルギーがあって素晴らしいものですが、たくさん生きてこられた方の作品には「人生の経験」があり「思い」があり、とても奥深いものであることに気づきます。例えば「秋の空」というおおよそ抽象的なテーマを用いたときには、「友達と一緒に学校の帰り道で見た夕日の“色”を描きたいわ」、「居室の窓枠から見える青空が描きたいの」などさまざまな言葉やイメージが皆さんから湧き出てきました。その方の心の内にある風景にほんの少し触れる気がして、ふと胸が熱くなることもしばしばです。

円陣をつくって歓談しながら制作することは、コロナ禍を経た今、介護の現場では難しくなっています。それでも制作後ロビーに飾った作品をネタに制作者はもちろん他の利用者様や職員などと一緒におしゃべりの花が咲くこともあります。

芸術はひとりで創る孤独なものという側面もありますが、こうして作品を通じて語りあっていると、素晴らしいコミュニケーションツールであることを実感します。

夢中になって創るおもしろさ、出来上がったときの感動、作品を前にみなで語りあう楽しさ、アートは何度でも私たちに喜びを与えてくれるようです。

医療法人ガラシア会職員／臨床美術士 皆木 典子

老健施設ニューライフガラシアは日本臨床美術協会により臨床美術活動施設として認定されています。



次は何色にしよう…  
色選びも楽しい過程です。

「自画像を描く」ではピカソ顔負けの作品も。



# 災害に役立つローリングストック

ローリングストックという言葉が耳にされたことがあるでしょうか？

ローリングストックとは、普段の食品を少し多めに買い置きしておく、例えば、缶詰、レトルト食品、乾物などです。

賞味期限の古いものから使い、消費した分を買い足していき常に一定量の食品を家庭で備蓄している方法です。

ローリングストックの方法や、災害時に役立つ簡単なレシピなどが農林水産省のホームページ（QRコード）でも紹介されています。簡単にできる防災対策として、日ごろから取り組んでみては如何でしょうか。

法人事務部長(防災士) 福島 成之



農林水産省

「災害時に備えた食品ストックガイド」はこちらから➡

ココがポイント

- ・費用、時間の面で、普段の買い物の範囲でできる
- ・買い置きのスペースを少し増やすだけで済む

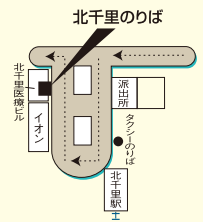
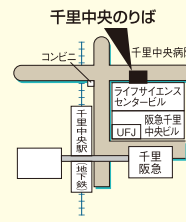
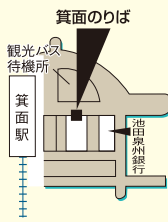


イラスト：農林水産省 HP より



●千里中央・北千里・箕面駅からシャトルバスを運行しています。

（送迎バス各のりば）



## ガラシア訪問看護ステーション

TEL 072-727-1866 FAX 072-729-3311  
2020年8月から土曜日も開設しています

介護老人保健施設

## ニューライフガラシア

TEL 072-729-2346 FAX 072-729-7951

指定居宅介護支援事業所

## ケアプラン ガラシア

箕面市小野原東 3-5-19

TEL 072-729-2347 FAX 072-734-8484

## ガラシア園田クリニック

兵庫県尼崎市小中島 2丁目 17-1  
TEL 06-4960-3800

スタッフ募集のページQRコード



★ スタッフを募集しています、詳しくはホームページをご覧ください。

## 編集後記

2024年夏、日中の最高気温が体温より高い日がありました。酷暑や猛暑、これまでにない暑さ、うだるような暑さなど、本当に暑さを表現する言葉はこれにつきません。数十年前に比べると夜に気温が下がらない、いわゆる熱帯夜が連続するような気候になりました。それでも季節は秋へと進み、朝夕は過ごしやすい気温に、そして暑い夏は思い出しに。季節の移ろいにも有難さを感じます。

